

## サポーター仲間の集いと地域連携

茨城大学文理・人文学部県南同窓会長 地頭所 惇



「日経グローバル」が実施する大学地域貢献度ランキングで、茨城大学は常に上位にランクされるようになった。これは教授陣から学生諸氏を含め関係者一同の幅広い活動が地域にしっかりと根づいてきているということであり、同窓生の一人として何とも嬉しい限りである。

私が同窓会に係るようになったのは文理・人文学部同窓会「在京同窓会（水交会）」のスタートからで丁度20年、一方、「県南同窓会」も10年になった。

双方とも同じ文理・人文学部の地域支部としての同窓会ではあるが、在京同窓会は文字通り文理・人文学部で学生時代を共に過ごした同期の仲間との会をベースに全学年一緒に開催する事で縦の関係も！とスタートし着実に成長してきた。

これに対し県南同窓会は、先輩諸氏の熱い想いを受けスタートしてみたものの規模も小さく昔の仲間ともなかなか出会えず、やはり同窓会は東京か水戸へととなって存続の危機に。そこで、規模や形式に拘らずに「茨城大学の地域のサポーター仲間の集まりに！」をスローガンに「県南同窓会」を運営することとした。

それには、文理・人文学部卒の枠内に拘っては発展は難しいので、農学部同窓会のご協力を得て当初土浦のホテルで開催していた総会を農学部キャンパス内に移させて貰うこととした。丁度、本部での「同窓会連合会」への動きも幸いし、教育学部同窓会の皆さんからも温かいご支援を得られ、地域の教育に永年携わって来られた教育学部卒の同窓生各位に多数賛同頂くことが出来、一挙に全学部のサポーター仲間の会へと発展する事が出来た。

阿見のキャンパスは、皆はじめの方々だが、それでもやはり母校！と感じる何かがある。このキャンパスが無ければ県南同窓会は到底存続し得なかったと思う。

次に、サポーターとしてはやはり現役の方々のプレーに直に触れたい。お願いついでに農学部の先生方にも次々に講演をお願いした。初めて学ぶ事ばかりだがとても興味深い。そしてヤーコンの研究を聞いては総会の抽選会景品にヤーコン製品を、農学部企画の茨大ブランド日本酒「茨苑」の発売以降はこれも景品に。また、先生方だけで無く、学生の研究もと「ジオパーク設立」や「光公害対策プロジェクト」の研究成果を現役の学生諸氏に発表頂き大変新鮮な感覚に酔うことも出来た。

更に、「茨城大混声合唱団」有志のコンサートが農学部内であると聞いて、同窓生だけで無く地元の合唱団の方々にもPRし、逆に混声合唱団の皆さんには、学園を飛び出して！と呼びかけたところ、阿見町の音楽祭に参加して貰うことが出来た。また、今年の総会ではアカペラの合唱を聞かせて貰うことが出来サポーター冥利に尽きた感じである。あるいはユネスコ協会主催の子供達の絵画展への後援など何れも小さな活動ではあるが、サポーターの一人として、仲間と楽しく連携しながら地域の方々により多様で多層的な繋がりが出来ればと願っている。